

曲目解説

研究熱心な各校顧問の選曲により、毎回充実したプログラムで注目されているジョイントコンサート。今回も注目作が満載の情熱的なプログラムでお送りします。解説も頑張って書きます。お楽しみに！

各校演奏

●波を越えてはるかに - 吹奏楽のための祝典前奏曲 - 後藤 洋

Over Great Waves and Far Away

Yo Goto (b.1958:日本)

後藤洋さんは米国に活動拠点を置き、日本と米国を往復しながら作曲活動と吹奏楽教育の研究を行っている。アメリカ吹奏楽指導者協会が1956年以降、その年の優れた吹奏楽曲を手掛けた作曲者に授与する「オストワルド賞」を、日本人で唯一、2011年に受賞している。この曲は北海道の函館地区吹奏楽連盟創立60周年を記念して2012年に作曲された。未来に向かう函館地区の吹奏楽活動への期待や、港町函館の国際的感覚や進取の精神が描かれた曲である。

●歌劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」より R.ワーグナー

第1幕への前奏曲 *Dir Meistersinger von Nürnberg*

Richard Wagner (1813-1883:ドイツ)

楽劇王の異名を持つワーグナーが、1867年に完成させた全3幕、15場、上演時間4時間を超える楽劇の、第1幕の前に演奏される前奏曲である。楽劇自体は16世紀中頃のニュルンベルグ(ドイツの街の名前)の様子を描いた喜劇色の強い作品で、台本も作曲者自身の手による。この前奏曲には、楽劇中の登場人物や内容が引用されており、この曲だけでも十分楽しめるだろう。祝祭的な雰囲気が強いため、式典などで聴かれる機会も多い。大変有名な曲である。

●カプレーティとモンテッキ

天野正道

I Capuleti e i Montecchi

Masamicz Amano (b.1957:日本)

- 「ロメオとジュリエット」その愛と死 -

イングランドの戯曲家シェークスピアが16世紀末に書いた悲劇の恋愛物語「ロメオとジュリエット」は大変有名であるが、この曲はその両家であるカプレーティ家とモンテッキ家に注目して作曲された。天野正道さんは映画音楽でも大変実績のある作曲家で、この曲も少し変わった方法で作られた。それは、この物語から2時間ほどの架空の映画を構想し、各場面に合わせて30曲ほど作曲、それを抜粋して交響組曲として仕上げたものである。2008年作曲。

●ポルコ・ロッソ 映画「紅の豚」より

久石 譲 (編曲:森田一浩)

Porco Rosso

Joe Hisaishi (b.1950:日本)

1992年公開、宮崎駿監督、スタジオジブリ制作の長編アニメ映画「紅の豚」は、古き良き時代のアドリア海の飛行艇乗りを描いたものである。その音楽より、①さくらんぼの実る頃、②時代の風一人が人でいられた時、③MAMMAIUTO(ママユート)、④ピッコロの女たち、⑤Porco e Bella(ポルコ・エ・ベッラ)、⑥狂気ー飛翔ー、⑦遠き時代を求めて、以上7曲を収録したメドレーである。主人公ポルコとライバルのカーチスの空中戦を描いた第6曲をはじめ、コミカルな曲、叙情的な曲など名曲揃いで、「紅の豚」の世界が見事に描かれている。2014年出版。

●第九 Brass Rock

Brass Rock

ベートーベン (編曲:野崎雅久)

Beethoven (1770-1827:ドイツ)

日本でも年末の風物詩であるベートーベンの交響曲第九番。そのなかで誰もが知っている一番有名な「歓喜の歌」をロック調に大胆にアレンジした斬新な曲である。中盤から終盤にかけての盛り上がりは、原曲とはまた違った感動を呼び起こすこと間違いなし！。2009年出版。

●オープニング・ファンファーレ

Opening Fanfare

長谷川清乃 (千葉県立浦安高校教諭)

Kiyono Hasegawa

今年の市川地区高等学校音楽会では、先生方の中から「他の地区でやっているように、音楽会の最初にファンファーレを入れてはどうか」という提案がありました。そこで作曲科出身の私に「作ってみませんか」とお話をいただいたことがきっかけで浦安高校吹奏楽部11名で演奏できるように曲を書きました。幸運なことに、地区演奏会で披露させていただいた際、「うちでも演奏したい」と、いくつかの学校の顧問の先生方からお声をかけていただき、思いがけずうれしくて、このたび大編成版を作りました。今回、市川昂高校吹奏楽部の皆さんに演奏していただけることは、私にとって夢のようで、そして、とても光栄なことです！。きっとこの曲のために今日まで一生懸命に練習して下さったことと思います。私も、この曲を演奏して下さる高校生を思いながら楽譜を作りました。どうか、これから始まる“楽しい演奏会”を予感させてくれるものでありますように。
(作曲者:長谷川先生のコメントより)

●オアフ島の情景 - 碧き海と聖なる大地の歌 -

Scenes from the Island of Oahu - The Sea and the Earth - Satoshi Yagisawa (b.1975:日本)

八木澤教司

八木澤教司さんは市川市在住の若手作曲家で、ジョイント参加各校の顧問とも親交があり、いつも専門的なアドバイスを頂いている。吹奏楽、管弦楽、アンサンブル、合唱など幅広いジャンルの曲を手掛け、海外でも八木澤作品は高く評価され、国際的な活動も行っている。

タイトルの「オアフ島」は、太平洋中央に浮かぶハワイ諸島の中心的な島である。ホノルル、ワイキキといったハワイの有名な観光地もこの島にあり、リゾート地として認識されている。一方で、島には独特な文化や貴重な自然も残されており、碧く美しいビーチや壮大な山々は人々に癒しを与え、その魅力に惹かれた人々が、世界中から集う島でもある。そんなオアフ島の感動的な情景を、日本の吹奏楽ファンにも伝えたく、作曲された曲である。2014年作曲。

●救いの時の告知 ~ ジーザス・クライスト

Calling from Jesus Christ

片岡寛晶

Hiroaki Kataoka (b.1983:日本)

片岡寛晶さんは新進気鋭の若手作曲家。大学は打楽器科を卒業。現在は管弦楽、吹奏楽、音楽教育などの活動の傍ら作曲・編曲も行っており、これらの作品は各地で演奏されている。

この曲は、作曲者自身が思い描いたイエス・キリスト(ジーザス・クライスト)を表現したものである。コラールは神への祈り、激しくメロディが交錯するのは受難、時折現れる同音連打は鼓動の表現と、静と動を織り交ぜ、美しくもエキサイティングに進行する。2015年作曲。